

【リデュース】(軽量化・薄肉化)

① 一本当たりの重量変化

2019 年実績として、基準年（2004 年）対比で 1 本当たり 1.7%の軽量化がはかられた。

1 本当たりの単純平均重量は、基準年（2004 年）の 192.3g に対し、2019 年実績は 173.5g と 9.8%（18.8g/本）の軽量化がはかられたが、これにはびん容量構成比の変化が含まれているため、その要素を除いたネットの軽量化率は 1.7%（3.3g/本）の軽量化となった。【表 1 参照】
残りの 8.1%（15.5g/本）はびん容量構成比の変化によるものである。

なお、基準年（2004 年）対比での軽量化による資源節約量は、2015 年～2019 年の 5 年間で、90,027 トン（100ml ドリンク剤びん換算 8 億 5,495 万本）となった。

【表 1】 1 本当たりの平均重量推移

	2004 年 (基準年)	2015 年	2016 年	2017 年	2018 年	2019 年
生産本数(千本)	7,262,950	6,389,736	6,417,523	6,226,485	6,107,220	5,721,682
生産重量(トン)	1,396,582	1,154,359	1,149,118	1,103,207	1,067,713	992,492
単純平均重量(g/本)	192.3	180.7	179.1	177.2	174.8	173.5
単純平均軽量化指標	100.0	98.5	98.5	97.8	98.8	90.2
ネット軽量化率指標 (加重平均)	100.0	98.5	98.5	97.8	98.8	98.3
軽量化率(加重平均)	—	▲1.5%	▲1.5%	▲2.2%	▲1.2%	▲1.7%
軽量化による 資源節約量(トン)	—	17,579	17,499	24,817	12,968	17,164

② 軽量化実績

2019 年に新たに軽量化された商品は、3 品種 9 品目であり、軽量化重量は 112 トンであった。

2006 年から 2019 年までに軽量化された商品は、11 品種 263 品目となった。【表 2 参照】

なお、軽量化実績の捉え方は、前年と同容量で軽量化された品目について限定しており、容量変更が伴う場合や、新製品の軽量びんは対象外としている。

【表 2】 2006 年から 2019 年までに軽量化された品目

品 種	のべ 品目数(263品目)
小びんドリンク	小びんドリンク(8 品目)
薬びん	細口(2 品目)、広口(2 品目)
食料びん	コーヒー(17 品目)、ジャム(13 品目)、粉末クリーム(2 品目)、蜂蜜(1 品目)、 食用油(6 品目)、食品(7 品目)、のり(1 品目)
調味料びん	辛子(1 品目)、たれ(7 品目)、酢(13 品目)、ソース(2 品目)、 新みりん(3 品目)、醤油(3 品目)、つゆ(9 品目)、調味料(15 品目)、 ドレッシング(13 品目)、ケチャップ(1 品目)
牛乳びん	牛乳(5 品目)
清酒びん	清酒中小(31 品目)
ビールびん	ビール(10 品目)
ウイスキーびん	ウイスキー(5 品目)
焼酎びん	焼酎(24 品目)
その他洋雑酒びん	薬味酒(1品目)、ワイン(25 品目)、その他(13 品目)
飲料びん	飲料ドリンク(8 品目)、飲料水(2 品目)、炭酸(3 品目)、ジュース(6 品目)、 ラムネ(2 品目)、シロップ(1 品目)、乳酸(1 品目)